軌　道　修　正

四期目の峠

平成十五年四月二十七日、村上市議会議員選挙が執行された。私はこの度、立候補すると四期目の挑戦になる。しかし、私を取り巻く環境は十年程の間にかなり変わり、自分自身の中で立候補に躊躇していた。議員活動をしながら事業経営を続けて来たが、生活の中で議員活動が順調に回り常に中心になり、事業経営がいつの間にかなおざりになっていた。経理と資金繰りは見ていたが大切な営業現場を見なくなっていました。現場の事は月に一度のミーティングと店長から上がる日々の報告が主になり店の実態を掴んでいなかった。しかも、絶対の信頼を寄せている人間に裏切られて居たとは夢にも考えなかった。特に、三、四年前から資金繰りが大変になっており、その時点でもっと良く営業店舗を調べておくべきだったと、後に原因が分かり後悔して為りませんでした。思い起こせば初めて立候補する時に、常にご指導頂いていた大欠の高橋隆一先生、杉原の中村順二氏、そして当時金融機関に勤め幼い頃より私の事、家の事を良く知る同級生の佐藤泰蔵氏に議員と事業経営の兼務の難しさを心配頂き忠告を受けていた。自分では良く分かっているつもりでいたが、いつの間にか議員活動に特化していた。そんな状態で二月を迎え、役員の皆に集まって貰い相談した結果、今ここで投げ出すのは責任の放棄になる。頑張って再度挑戦すべきと励まされ四期目に挑戦する事になった。投票日まで二ヶ月を切り時間のない中で、同級生の藤井一男氏、上町の山脇良一氏、坂井明弘氏、稲垣晴一氏達が支援頂く皆さんの牽引役を務めて下さり無事四選を果たす事ができた。同じ、四月の十三日には新潟県議会議員選挙も執行されており、二期目を目指す大野進一氏を支援していたが残念ながら捲土重来を期す事になった。この一年で市長、県議が交代し、村上市にとっても私にとっても大きな岐路に来ている気がした。

心新たに

選挙前から考えていた事だが、私は事業から身を引く決意をした。泰文堂については私が信頼し、初めて市議会議員選挙に立候補を決意した際に呼び寄せた人間に譲る事にした。今となればこの事が一番の失敗で有ったが知る由もなかった。親父が泰文堂創業以来、四十八年間育て続けた看板に幕を引く事になり大変申し訳ないと思っている。村上プラザで営業していた飲食店二店は、洋食レストランについては既にドレメの長谷川良夫氏に代わって頂いていた。和食レストランについては義弟の三須猛君に継いで貰う事にお願いした。家族に無理を頼み、お世話になった方々に相談のうえ事業から離れ、議員を務め政治、行政に関わる仕事の中で生きて行こうと決めた。

議長選に名乗り

私は平成十五年の市議会議員改選後行われた議会の人事構成の中で初めて議長に名乗り

を上げた。理由は二つあるが、一番には前年に村上市長が交代した事にある。広域合併は行政事務方で首長の指示の下、粛々と進んでいるが、先に述べた通り市町村長の信頼関係を築けないでいる為、村上市長として合併協議会のリーダーシップを執れなくなっていた。それなら、七市町村議会が信頼の上に立ち、市町村長をリードして行政の広域合併へ向けた舵取りを間違わぬよう議長会が引っ張る時だと考えた。生意気を云うようだが、この時に各町村議長、議会へ頭を下げて回り懐に入って本音の話し合いが出来るのは私しか居ないと思っていた。もう一つの理由は私自身が事業から身を引いた事で、今まで以上に議会、議員活動に身体と時間を使える事でした。しかし、佐藤順村上市政の中で、村上市議会も市長派、反市長派、また広域合併の考え方で対立が始まっており、その色分けにより最初から叶わぬ事でありました。その時選ばれた議長、森川幸男議員は気の毒にも一年で選んだ議員達に辞職を迫られ交代する事になってしまった。

衆議院議員選挙を終えて

同じ、平成十五年十一月九日には衆議院議員選挙が執行された。稲葉大和代議士は四期目を目指し立候補した。私は市議会議員が専業となっており他に仕事を持っていなかった。選挙事務所の中に入り、時間のある限り選挙運動を手伝わせて頂いた。この時の選挙は前回にも増して小選挙区制の影響を受け、安定した選挙戦を展開し無事当選を果たした。その後、十二月より稲葉大和代議士の私設秘書としてお手伝いをしながら、市議会議員として政治、行政の勉強をさせて頂く事になった。

稲葉大和新発田事務所に

平成十六年一月から私は、稲葉事務所の中で新発田市を担当する事になり、新発田事務所を中心に活動する事になった。これは事務所の事を考えたのと自分自身の勉強になると考え私も希望した事であった。事務所は村上市、新発田市、五泉市の三ヵ所に設置してある。私は受け持つエリアと通勤時間を考えたら、村上から通う私では五泉事務所は無理と考えた。また、村上事務所は近くて地域の事も良く理解しており、議会対応を考えても便は良かった。しかし、村上市の市議会議員をしている私が、圏域市町村の行政、議会、議会議員の要望や相談を受ける事になれば相手も嫌であろうし、事務所に寄りづらくなっては困ると思った。その点、新発田市であれば一人の秘書として働いている私を気にする人もいない。村上市と新発田市では市町村合併の方式は違うが当時は村上市の目指す行政規模に近い事もあり、私自身にとっては広域市町村合併を実践している新発田市は勉強になると思った。新発田市を回るようになると二階堂馨市議会議長（現、新発田市長）や片山吉忠市長に村上市の市議会議員が新発田市の為に働いていて文句は出ないか、などと冷やかされ心配を頂きながら良い勉強をさせて頂いたと感謝しております。お陰で代議士秘書として、県、国の省庁へ相談に行く事も当たり前の事となり、私にとってどれ程勉強になったか計りしれない。平成十九年十二月までの四年間であったが私の政治に関わる人生の

中で市議会議員だけでは知り得ない勉強と経験をさせて頂いた。